

それでも
君を
離さない

ハナブサ



明治二年頃





そうやって
いただけると
奉公人冥利に
尽きます

章仁はうちに
奉公に来て
何年になる？

たしか十歳の
時に奉公に
来たので今年で
十年目ですね

もう
そんなに
経つのか

ええ

初めておまえと
会った日のことは

今でもよく
覚えているよ

おまえは今まで
来た年季奉公の
奴らとはまるで
違ってたからな

悠真その子を
奉公人部屋まで
案内して
あげなさい

私はこの方と
話があるから

はい



よろしく
お願いします！

え？
なんで？

……
なんかおまえ
変わってるな



年季奉公って
わかるか？
ざっくり言うとな
身売りだぞ

親に売られて
悲しく
ないのか？



うちは
貧乏だし
僕は末っ子
だし

食い扶持
減らすには
仕方ないよ

仕方ないって
おまえ……



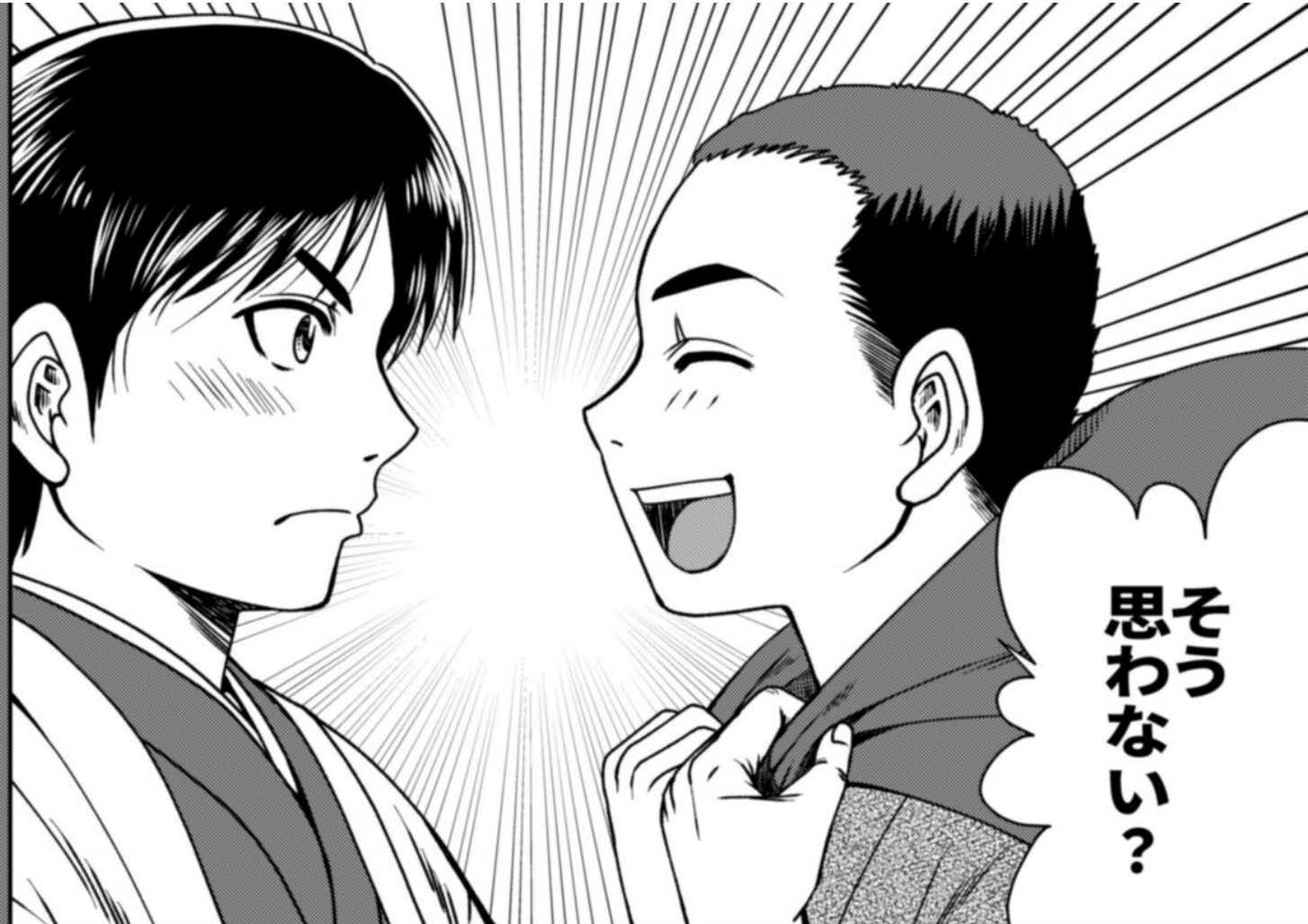
まあ
口減らしとか
言ってる……

殺されなかった
だけでも運が
いいよ



年季奉公で
うちに来た奴らは
だいたい暗い
顔してるのに

おまえやたら
ニコニコして
いるから……



そう
思わない？



あれ以来俺は
おまえが気に入って
親父に頼んで俺の
世話係にして
もらったんだよな

ご指名
感謝して
おります





…親父から
暖簾分けの話が
出てるんだって？





…え？

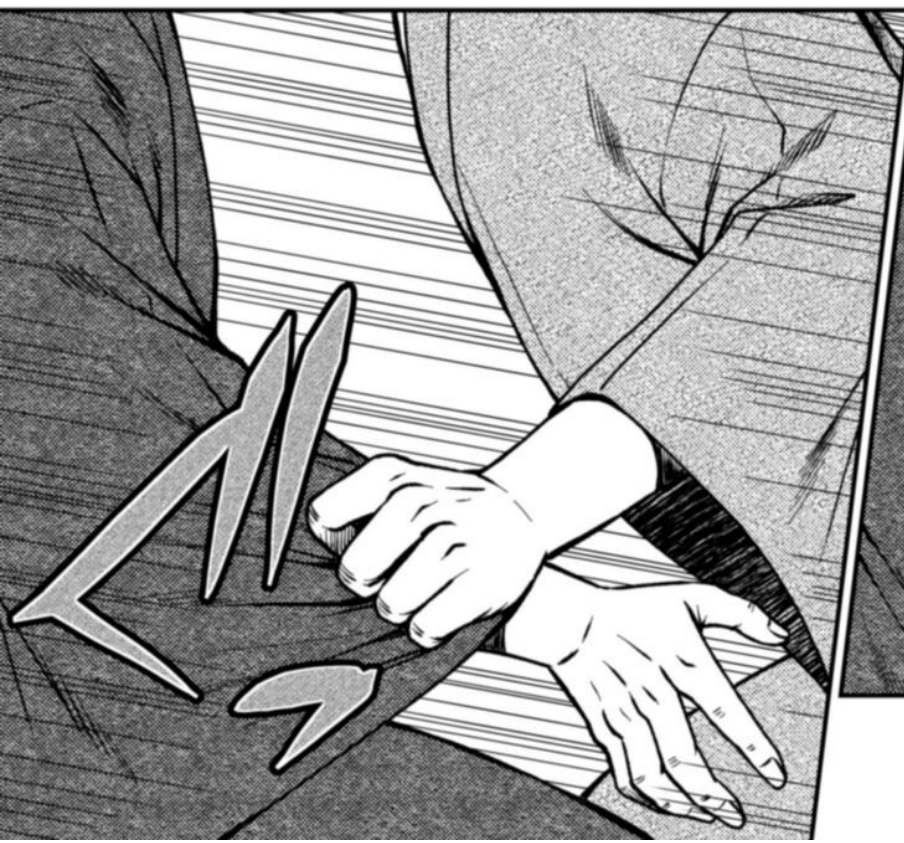
俺のことは
もうどうでも
いいのか？

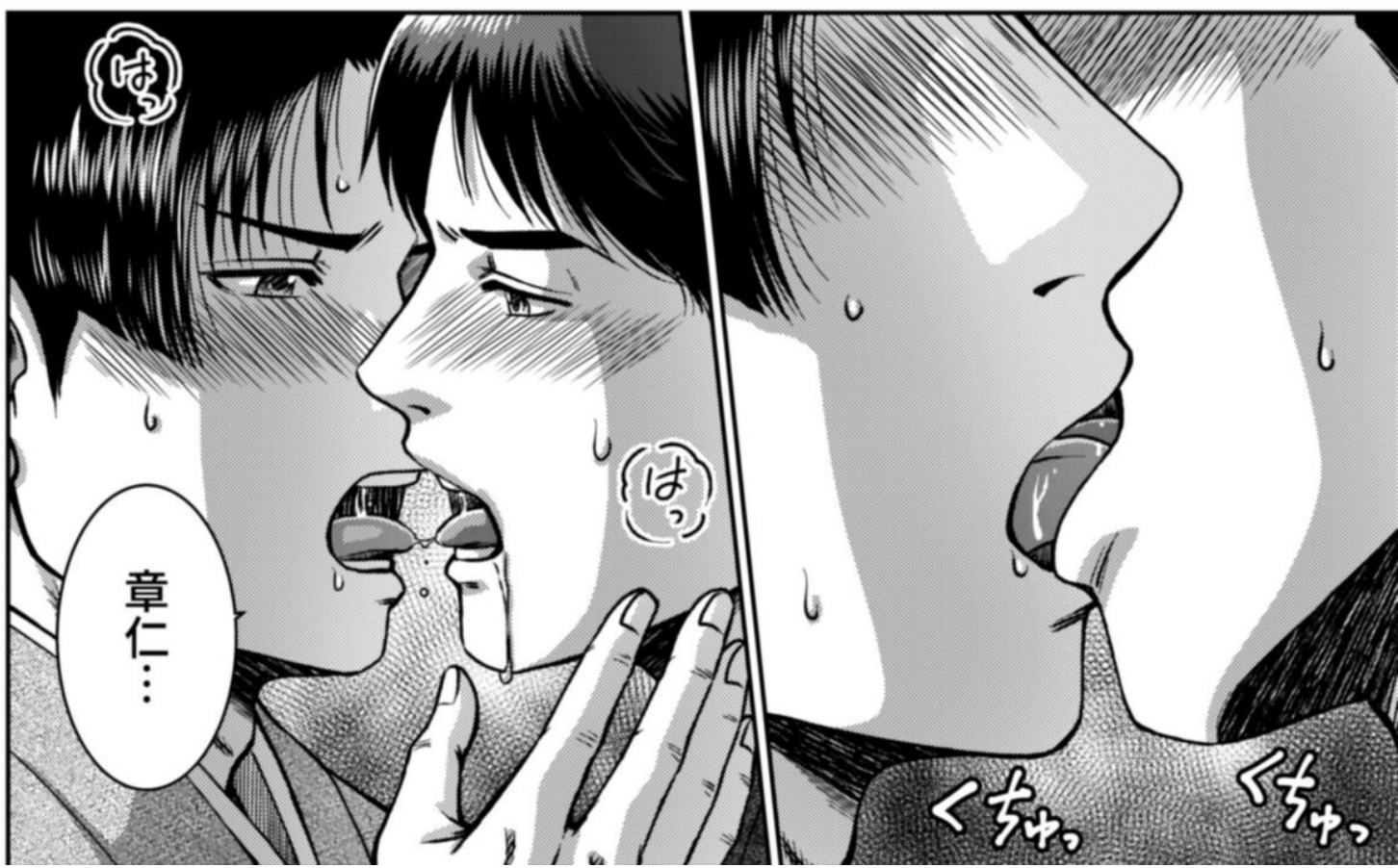




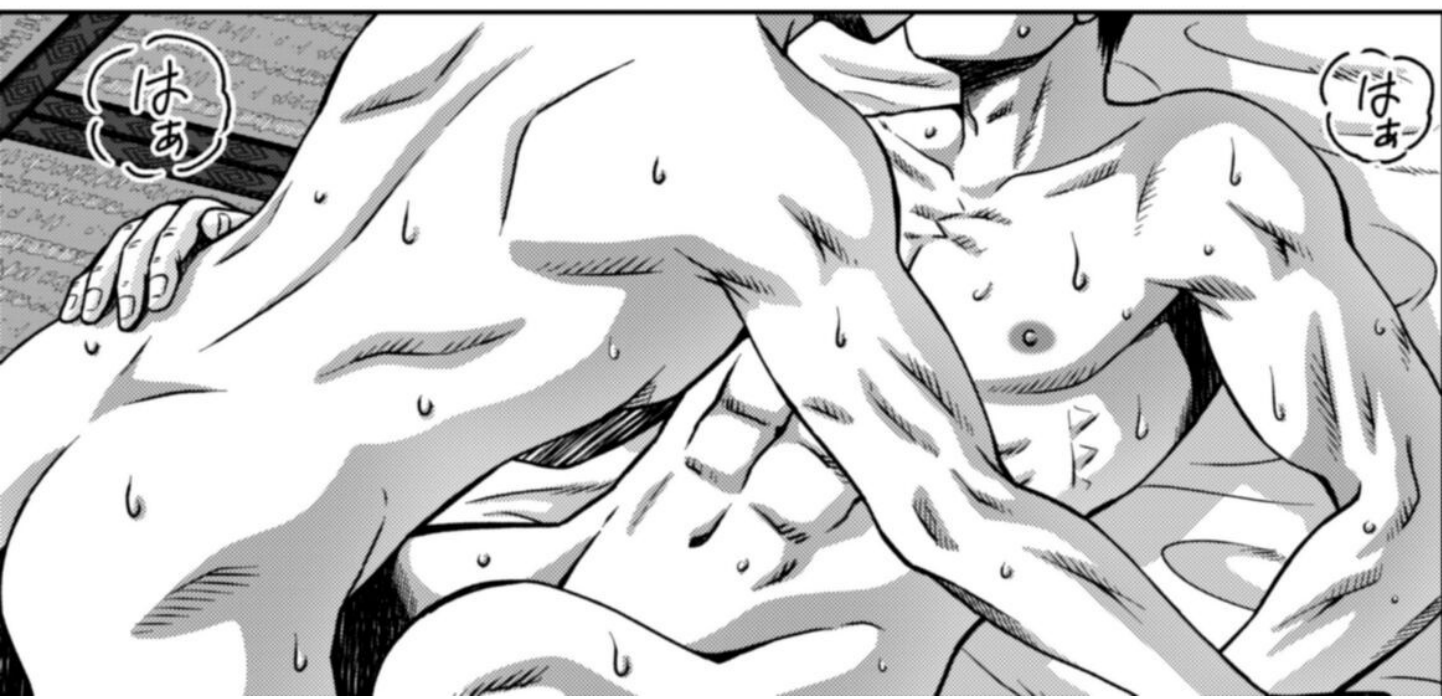
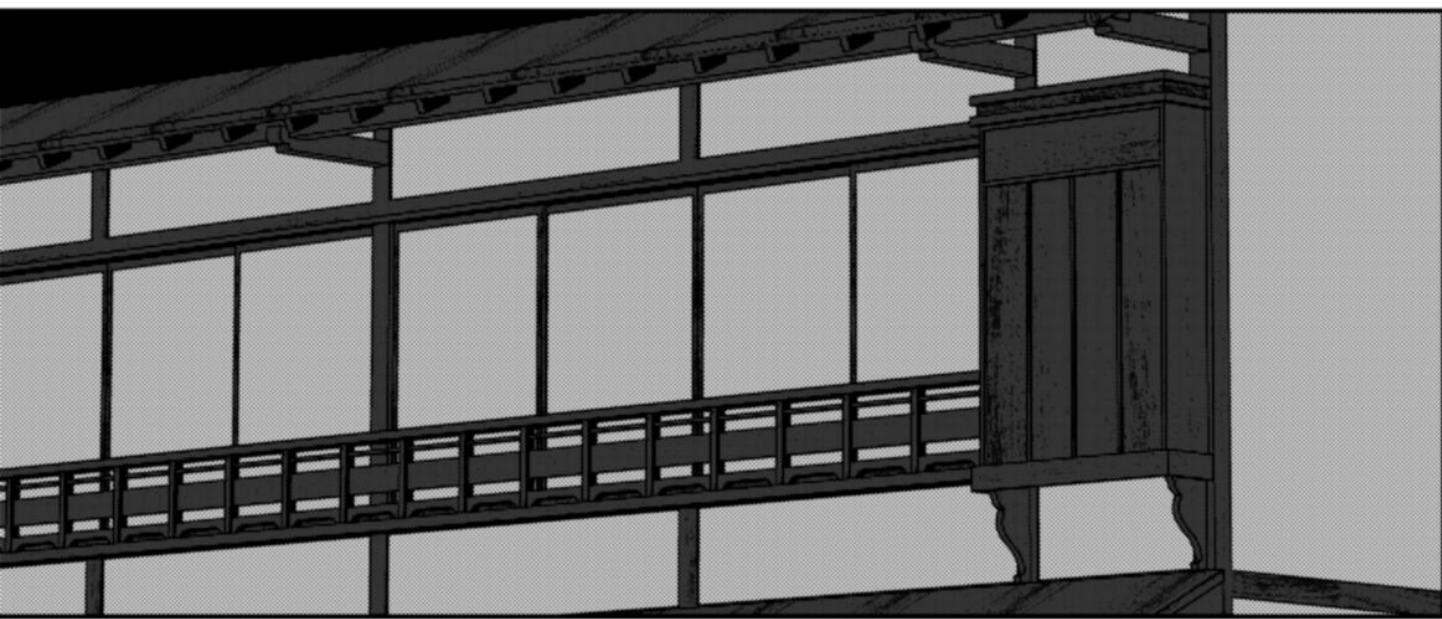








おまえの全てを
俺にくれ





なあ
章仁…

はあ

は

親父は浮世絵の
収集が趣味なのは
知ってるだろ？



親父の収集した
浮世絵の中に
春画もあるんだ

と

と

その中に
男色の絵も
あってな…

あの春画を
思い出しては
俺とおまえを
重ねていた

あの時は
妄想だったが
今はそれが
現実になっている



んっ…
あッ…！

気持ちいいか？
我慢しないで
いいんだぞ

くちゅ
くちゅ











いれ
挿入るぞ



先が
入った

早く全部
おまえの中に…
力を抜いて



は…











はんッ

はっ…



章仁…

おまえの中…
想像以上だ

腰が止め
られないよ

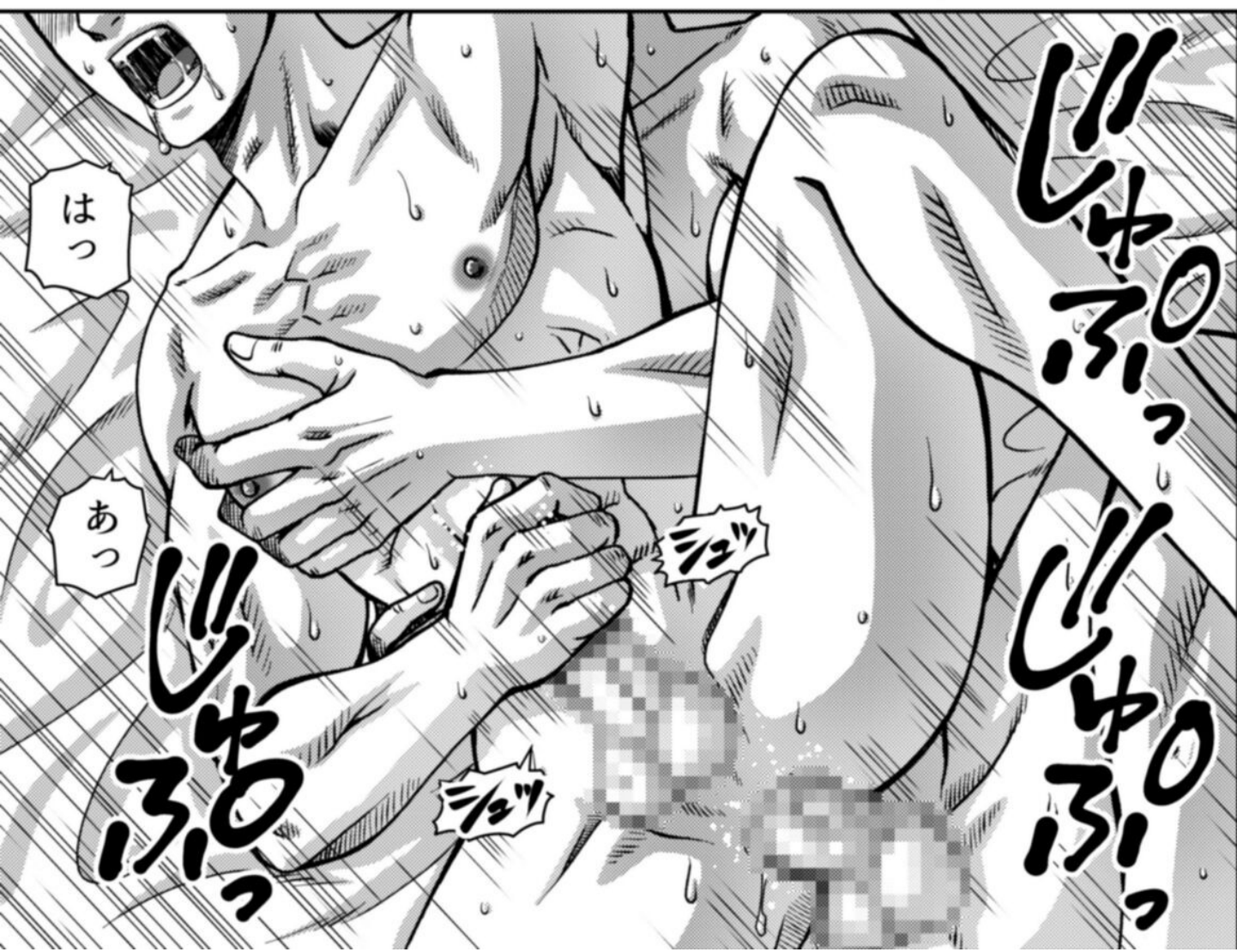
ずっ

ずっ

ずっ

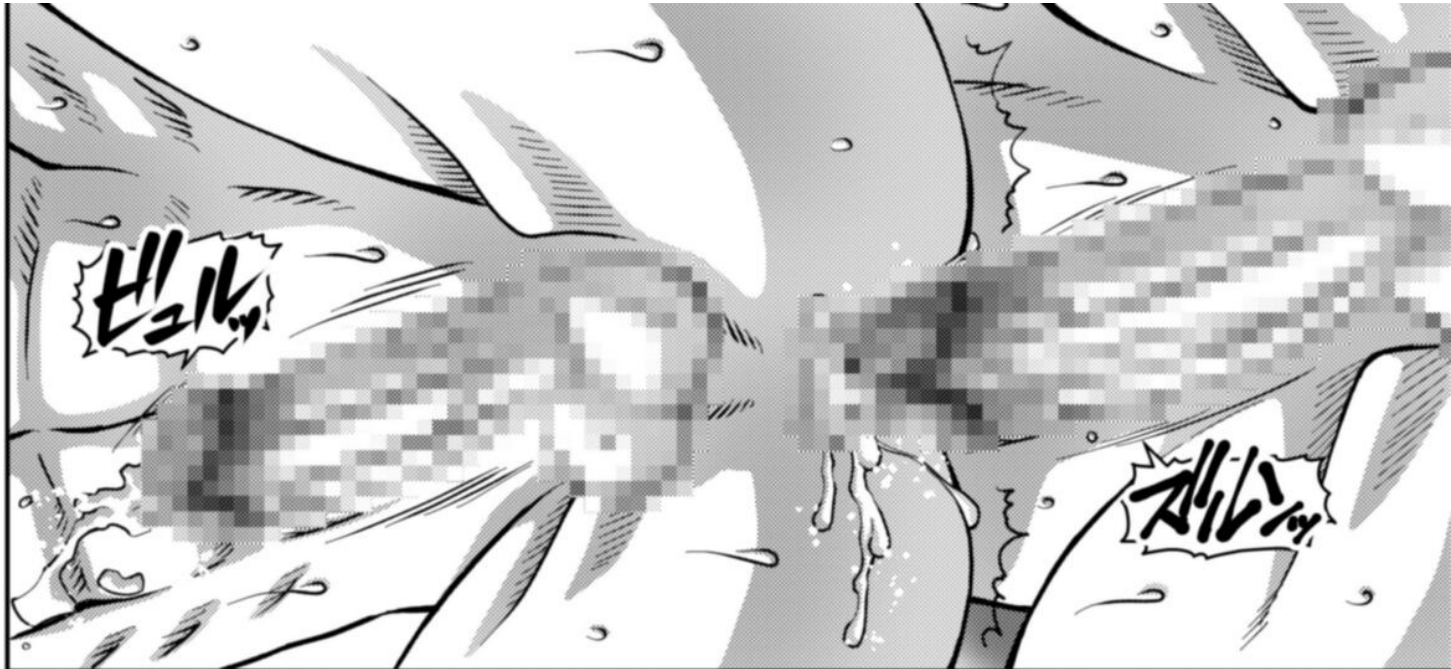
はっ

はっ

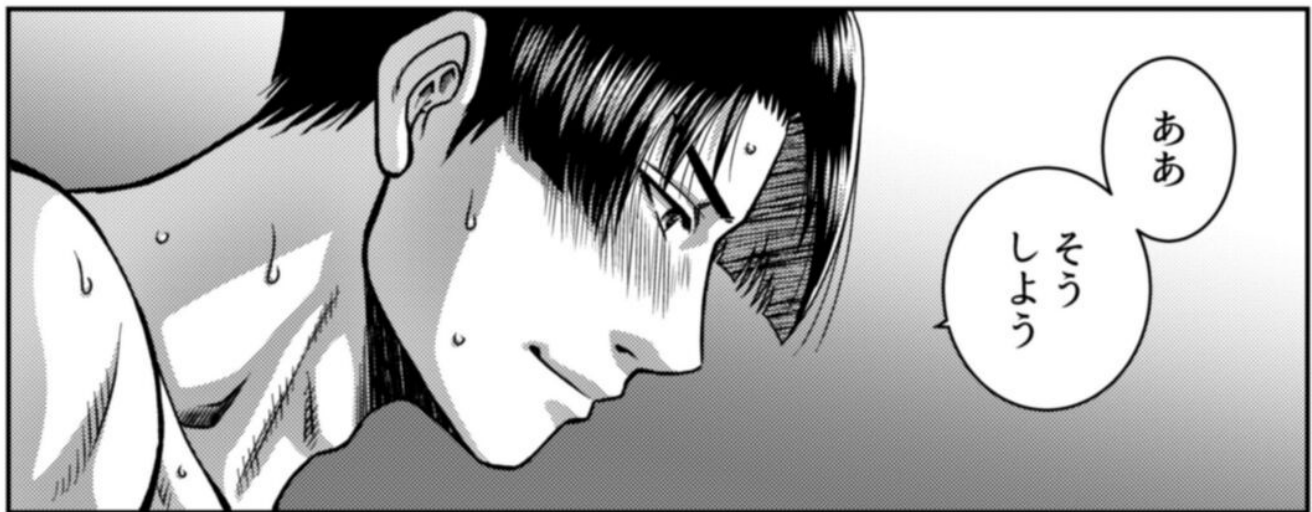








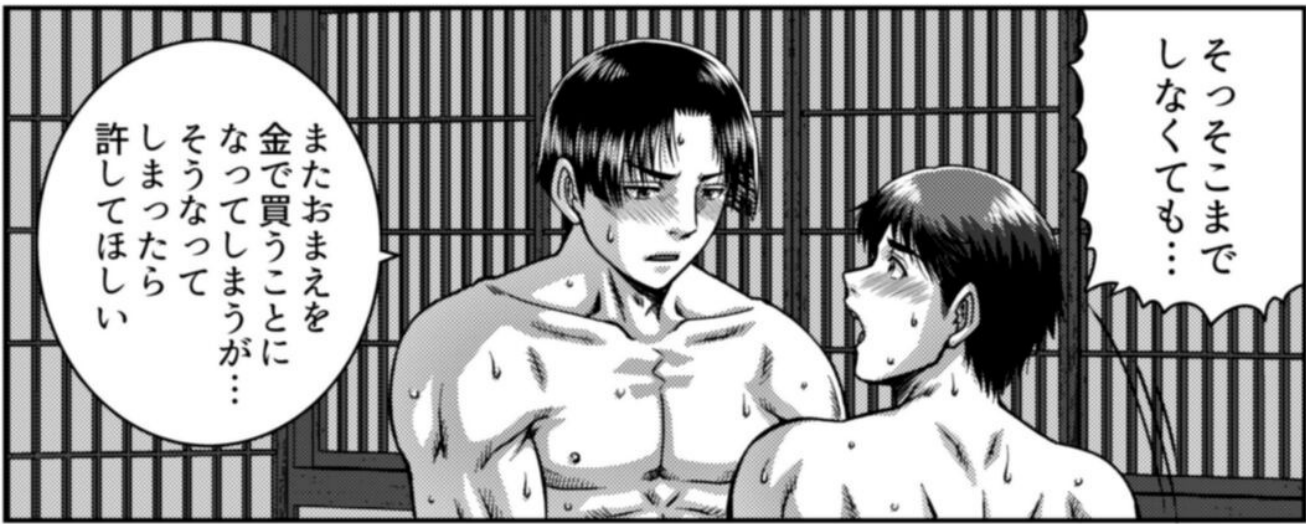






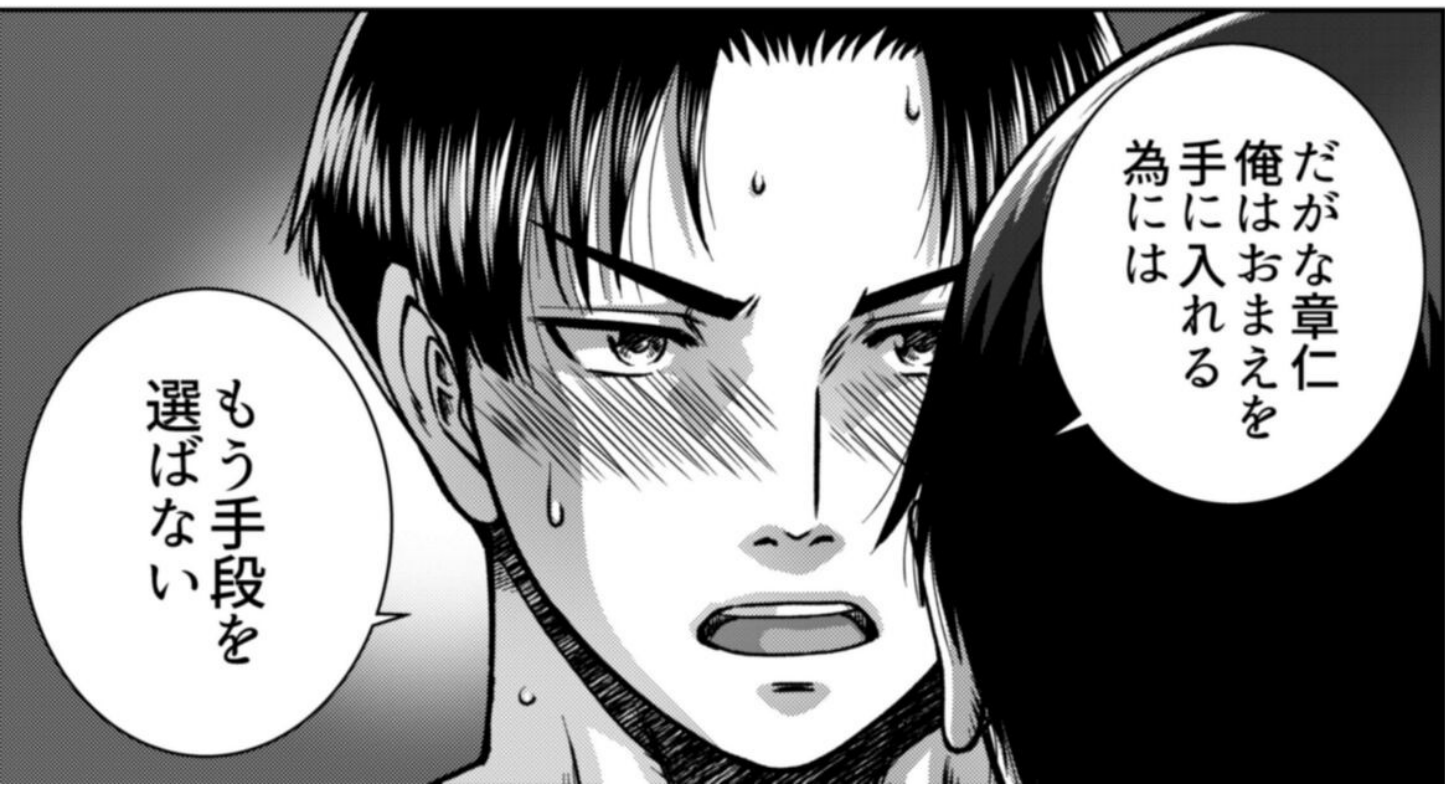
もしダメと
言われたら

俺がおまえを
「身請け」する



そつそこまで
しなくても…

またおまえを
金で買うことにな
ってしまいが…
そうなら
しまったら
許してほしい



だがな章仁
俺はおまえを
手に入れる
為には

もう手段を
選ばない

どんなことが
あっても…

俺はおまえを
離さない



絶対にだ

終